

記事掲載：2021年10月

翻訳：2021年11月

## 「教育を後回しにはできない基金」(Education Cannot Wait/ECW) は、 アフガニスタンにおけるすべての子どもと若者の 教育を受ける権利を保障するため、緊急の資金援助を呼びかける

ECW 事務局長ヤスミン・シェリフは、タリバンが実権を掌握して以降初めてとなる、女性だけで構成されるアフガニスタンへのミッション(支援チーム)を率いて、アフガニスタンを訪問しました。

「アフガニスタンが完全崩壊の危機に瀕している中、国際社会の関与が必須です。人道的な使命を最優先にすべきです。」



(C) Education Cannot Wait

2021年10月27日、カブール/ニューヨーク

タリバンによる事実上の政権掌握以来、女性だけで構成される初めてのアフガニスタンへの国連によるミッションが派遣されました。このミッションを率いた、緊急下および長期的危機における教育のための国連グローバル基金である ECW のヤスミン・シェリフ事務局長は、ミッション参加直後に、人道と開発のネクサス(連携)による対応を強化するために資金支援を大幅に増やすよう、ドナーに訴えました。

教育は、紛争下において子どもの身を守るための、命に関わる情報を与え、紛争の心理的悪影響を緩和し、人身売買や性的虐待、そして徴兵・徴用などから子どもを保護することができます。こうした命を救うことができる教育を、国連機関や NGO は、現地の最も弱い立場にある子どもや若者に提供しています。

シェリフ事務局長は、これらの支援活動に対する資金を緊急に拡大する必要性も訴えました。

急速に気温が下がる冬の寒さや、国全体で崩壊する経済、長期にわたる干ばつと長年の紛争の影響で、子どもたちの健康と栄養の危機が深刻化しています。世界食糧計画（WFP）は、アフガニスタンの人口の半分以上にあたる2,300万人が、これから来る冬の間、食料の確保が困難になると警告しています。これは過去最大の数です。加えて、1,000万人近くの少女と少年が生き残るために人道支援に依存しています。これまでの20年にわたる開発の努力が、過去2か月の間に深刻な影響を受けたのです。

「給料は何ヶ月も支払われず、お金や物品が国内で流通しなくなり、地域社会や家族全体が生活の糧を失い、生活のために必死になっています。この深刻な危機の矢面に立たされているのは、なんの罪もない、最も弱い立場にある少女、少年、青年、若者たちです」とシェリフ事務局長は述べます。「国連加盟国、ドナー、人道支援団体、そして危機に対応している開発支援団体は、子どもたち、教員、教育関係者、そしてアフガニスタンの人々を支援するために、あらゆる支援の中心に教育を置くための行動を今すぐ起こさなければなりません。なぜなら、教育は彼らの未来であり、国の未来でもあるからです。教育分野で活動する組織は、推定10億ドルを緊急に必要としています。」

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大により、2020年から2021年にかけてアフガニスタンのほとんどの学校が閉鎖されていましたが、8月の政権掌握以降、女子・男子ともにほとんどの小学校が再開されました。現地で活動する国連やNGOのパートナーによると、中等教育に関しては、現在までに一部地域で女子教育が再開されています。

「今日のアフガニスタンの混乱の中で生活している何百万人もの子どもたちにとって、教育を受けることと学ぶことは生命線であり、そのための支援が必要です。少女や少年が健康で生産的な生活を送るための手段を与えるだけでなく、彼らを保護し、安全を確保することにもつながります」と、ユニセフのアフガニスタン副代表であるアリス・アクンガは述べました。「私たちは、教育システムの崩壊を防ぎ、過去20年間に子どもたちのために得られた成果が守られるよう、国際社会に協力を求めています。」

3日間のミッションの中で、シェリフ事務局長はカブールで事実上の政府の関係者と会談をし、すべての子どもたち、とりわけ思春期の少女への質の高い教育へのアクセスを国内全域で増やすことの重要性を強調しました。また、カブールの女子校を訪問したほか、国連事務総長、国連機関、国内外の市民社会組織、緊急時の教育に関するワーキンググループのメンバーなど、幅広い教育関係者と会談しました。現地の状況を把握した上で、ECWの緊急教育支援の拡大や教育分野における国連やNGOへの資金提供の拡大が追加的に可能となりうるのほどを確認しました。

国連機関や市民社会組織による直接事業実施というECWの支援の枠組みを使って、ECWは2018年から、アフガニスタンで最も脆弱な立場にある少女と少年のための教育プログラムの提供を支援しています。

「ECW は、地域社会を基盤とした教育やその加速のためのプログラムを通じて、具体的な教育の成果を挙げながら、最も困難な状況下で活動することができました。また、私たちは女性教員や女子教育にも焦点をあててきました」とシェリフ事務局長は述べます。「私たちのパートナーであるユニセフ、その他の国連機関、国内外の NGO は、引き続きアフガニスタンで活動しています。彼らは、アクセス可能になった新しい地域で活動を拡大する準備ができています。しかし、そのためには莫大な資金が緊急に必要です。」

これまで、ECW はアフガニスタンの少女、少年、若者の教育支援のために 4,500 万米ドルを投じてきました。この中には、第一次「複数年レジリエンスプログラム」向け 3,600 万米ドル（うち 2,400 万米ドルはすでに支援済み）、これまでの「第 1 次緊急対応準備金」からのグラント（無償資金協力）460 万米ドル、そして新たな需要の高まりに応じた、最近の「第 1 次緊急対応準備金」からのグラント 400 万米ドルが含まれています。

ECW の「子どものすべて(whole-of-child)」を対象とした教育アプローチは、効果的であることが証明されており、前政権の支配下になかった地域も含めて、望ましい結果をもたらしています。ECW の 2020 年の年次報告書によると、ECW が資金提供した活動の受益者の 58%は女子であり、ヘラート、クンドゥズ、カンダハル、ウルズガンなど、アフガニスタンで最も支援の手が届きにくい地域でプログラムが実施されています。

今回の人道危機以前から、アフガニスタンでは 420 万人の子どもたちが学校に通えておらず、そのうち約 60%が少女でした。特に農村部で、適切なインフラや教材が不足していました。紛争や大規模な人口移動、質の高い教育へのアクセスの不平等が、特に少女や障害のある子ども、社会から疎外されたコミュニティの状況を悪化させていました。

「国連や市民社会のパートナーとともに、ECW は世界の危機的状況にある国々で、質の高い教育へのアクセスを提供してきた実績あるモデルを持っています」とシェリフ事務局長は述べます。「戦略的パートナーやドナーに対し、ECW と国連や NGO のパートナーが、アフガニスタンのすべての少女と少年のために、プログラムを維持し、早急に規模を拡大できるよう支援することを呼びかけます。教育は彼らが生まれながらに持つ人権であり、すべての少女の権利でもあります。私たちには、彼らの人生の若い重要な時期に、彼らを見捨てないという道徳的、法的、倫理的な義務があります。アフガニスタンの歴史のこの重大な時期にこそ支援が必要です。今、私たち自身の人間性が試されているのです。」

【翻訳前の記事（英語）】

<https://www.educationcannotwait.org/education-cannot-wait-calls-for-urgent-funding-to-fulfill-the-right-to-education-of-all-children-and-youth-in-afghanistan/>